



# ペドログリフ2020

## ～Engrave the history～



### ～1年を振り返って～



第46代理事長  
古川一裕

2020年の活動も納会卒業式を終え、残り半月あまりとなりました。この1年は皆さんにとってどんな1年だったでしょうか。社会の日常はコロナ一色に染まり、感染者数の発表がトップニュースとなり、コロナ禍に対応した新しい生活様式と価値観へと転換が進んでいます。

私たちの活動も大きく方向転換を迫られ、例会事業の中止、理事会総会のオンライン対応、みらい創造委員会では委員長交代など例年では想像もしない変化が起きました。難しい状況下でしたが、委員長を中心に各委員会が諦めずに苦労を重ね活動を続けてくれたことが今年の成果と言えます。今年度福島ブロック協議会のスローガンは「Try and Change 変化に対応できる人であれ」でした。

生物は進化の過程で様々な変化に挑戦し対応してきました。そのたびに生き残ったのは力の強いものではなく、変化に適合したものだのです。コロナ禍により一変した日常は元には戻りません。青年会議所がこれからもこの喜多方で活動をするためには、状況の変化に対応し新たな価値を身につける必要があります。2020年の活動で得た気づきと学びを糧に、自らを鍛え青年経済人として地域に貢献していきましょう。

本年は3名の卒業生を送り出します。新谷君は坊主頭で私の事務所まで会員拡大に来てくれました。その時は怖かったです。岩田君には理事会で致命的な意見で凍り付かされました。理事会の怖さを教えてくれました。佐藤君は急にスイッチが入ってブロック副会長まで勤めてくれました。心から助かりました。3名の卒業生の皆さん、長い間青年会議所に関わっていただきありがとうございました。次なるステージでの活躍をお祈りいたします。

最後になりますが、この1年間私が青年会議所理事長として過ごすことが出来たのは、会員皆様の活動のお陰だと深く感謝しています。本当にありがとうございました。そしてこれからもよろしくお祈りいたします。

### ～納会卒業式報告～



今年度は社会情勢を鑑みて、新型コロナ対策を施して、OB会長と会員のみで実施しました。例年と異なる内容になりましたが、しっかりと1年を締めくくることができました。

3名の卒業生（岩田祐樹君、佐藤雅一君、新谷正樹君）に感謝を伝え、お祝いすることかできました。卒業生の皆さん、長い間、会津喜多方商工会議所を支えてくれてありがとうございました。

これからも「明るい豊かな社会」の実現に向けて歩んでいきましょう！





## 卒業生より ～JCを振り返って～



岩田 祐樹  
2004年度入会 会員番号308

2004年に入会し16年間大変お世話になりました。振り返ってみると、入会当初は青年会議所の活動に特に関心がなく、訳も分からず、委員会や例会に参加していました。しかし、先輩方が熱心に活動する姿を見て少しずつ自分の気持ちも変化していきました。副理事長や委員長を経験させていただいた年は本気で青年会議所活動に取り組みました。その時の達成感は忘れられません。

会津喜多方青年会議所で経験した事、学んだ事は一生忘れません。お世話になった先輩方、現役メンバーのみなさんありがとうございました。

2007年の入会以来、13年にわたって青年会議所活動を続けてきました。時には山あり谷ありの困難や幸せがたくさん詰まった思い出を得ることが出来ました。

ブロックの委員長や理事長、そしてブロックの副会長と様々な経験をさせていただき、自己の成長に大きくプラスとなったと確信しています。現役の皆様も是非機会があれば貪欲に手を上げて己の成長のために邁進してくれることを祈っています。

JCには人間を成長させる力が確かにあります。辛いことも楽しいこともみんなで分かち合いましょう。熱く輝くヒーローとなれ！その光が市民と地域を導く！長い間お世話になりました。ありがとうございました！



佐藤 雅一  
2007年度入会 会員番号323

2017年に再入会し、先日卒業することが出来ました。当日は多くの花束・心温まるビデオレター・また御祝の御言葉、誠にありがとうございました。

多くの諸先輩の皆様にとくさんのご指導を頂き、40歳という限られた時間の中でとくさんの事を学び、成長させてくれた場所がJCでした。しかし諸先輩の皆様から学んだものを私自身、どれだけ現役メンバーに伝えることができたのか…その使命は果たせてはいないと感じております。

今後現役メンバーの皆さんとは多くの事業で共に活動する機会が多いと思います。その際は現役中には出来なかった部分を私自身の使命と感じながら、共に大好きな喜多方のために活動していきましょう！本当にありがとうございました。



新谷 正樹  
2017年度入会 会員番号 378

親卒業



## ～ 10月例会報告～

10月例会は「自分自身を振り返り、自分自身の夢やビジョンについて考える事」を目的に開催いたしました。動画にて青年会議所のOBでもあります植松努氏の動画を視聴して諦めない姿勢を学びました。その後、ワークシートにてメンバーそれぞれの人生の振り返りを行いました。各メンバーが、自分の人生を考え、成した事、向き合った事などを考えました。

今後の人生や青年会議所活動を有意義なものにしていく良い機会になったと考えております。ご参加頂いたメンバーの皆様ありがとうございました。 会員研修委員会委員長 岩田悠二郎

## ～ 11月例会報告～

11月例会では日本青年会議所のヘッドトレーナー沼田弘之様を講師として迎え、VMVプログラムについて講義を受けました。講義では普段唱和しているJCIクリード、JCIMission、JCIVisionを翻訳し、自分たちなりの解釈でかみ砕き、JCの目的について改めて考えなおしました。我々が何を目指しているのか、地域のために何をもちたさなければならないのか見つめ直し、これからのJC活動を改める良い機会を得る事が出来ました。 事務局長 中野拓実

## ～ 12月例会報告～

12月例会は、例年のように褒賞委員会を開催いたしました。今年度は、納会の中で行うという稀な状況の中で行いました。一年間皆様活動お疲れさまでした。

瓜生君、佐藤健太郎君 優秀会員賞おめでとうございます！来年は最優秀目指してがんばってください！

BY最優秀会員より。笑



### 出向者に聞け！アカデミー



アカデミー委員会  
佐藤 健太郎

この1年アカデミーに出向させていただくことで様々な出会いの機会を頂戴することができました。出会った仲間達と今のLOMについて分析し課題と解決策をまとめる組織改革論を考える時間はとても有意義な時間でした。

この出会いに感謝し、同期アカデミーの皆さんとの繋がりをこれからも大事にしていきたいと思えます。この度は出向させていただきまして、理事長はじめ会津喜多方青年会議所の皆様へ感謝申し上げます。

私は、一往直前をスローガンに、アカデミー委員会に取り組んできました。今年の委員会ではJCIプログラムを通してJCが何のためにあるのか、私たちが何をしていくべきなのかを知ることができました。

また、アカデミー発組織改革論に取り組み、JCの良い点、悪い点を改めて考えなおし、塾生の仲間とJCのネガティブイメージを払拭する動画の作成などを行いました。今後のJC活動では学んだことを活かし、地域とLOMの発展のために尽力したいと思います。



アカデミー委員会  
中野 拓実

### 出向者に聞け！福島ブロック



福島BL副会長  
佐藤 雅一

総務委員会担当副会長として出向させていただきました。今年はコロナの影響により、ブロック協議会としても念当初に掲げた事業計画での活動は難しい結果となりました。しかしその分会議の運営方法として新たにWeb会議であったりハイブリッド形式での会議の設営などが推進され、これからのニューノーマルの時代に即した会議の運営・設営を行うことが可能になりました。ぜひLOMでも今後は新しい会議のあり方を模索してください。





# 1年を振り返って ～各委員会より～



## 組織運営委員会 委員長 瓜生 真吾

今年、自分自身に掲げた目標は、2年前の初委員長の時よりも成長するということでした。特に、意識したのは物事を主体的に捉え、全ての結果は自分の行動によるところであるという意識を持つということでした。その覚悟を持って歩み出しましたが、今年は、だれもが想像しなかったコロナ禍という状況で、事業計画を遂行することが難しい一年となりました。会津喜多方青年会議所の活動は一時休止となり、その後の活動にも大きな影響を与え続けました。



しかし、このコロナ禍においても主体的に捉えることで、何かできることはあるはずと委員会メンバーで考えた結果、12月18日に喜多方市長と青年3団体との意見交換会を開催することができました。ここに至るまでには、大きな壁が立ちましたが、委員会メンバーの協力のもと、無事に一年を終えることができました。ありがとうございました。この一年に感謝をして、また来年も情熱を持って歩んでいきたいと思えます。



## みらい創造委員会 委員長 齋藤 政和

本年度、私たちは4つの対外向けの事業を計画していましたが、開催時期に新型コロナウイルス感染症が流行し、ほとんど実行することができませんでした。何もできずに終わってしまうのかと落胆しておりましたが、最後に「納会・卒業式」を開催することができました。どのような運営方法が正解なのかははっきりとは言えない状況の中、知恵を出し合い運営できたことは大きな経験になったと思っております。

また、新谷委員長が喜多方を離れることになり、委員長の交代がありました。戸惑いもありましたが、新谷君の思いと委員会メンバーの協力があって、活動を続けることができました。本年度の活動を通して、青年会議所は実に様々な経験ができる団体であると実感しております。1年間ありがとうございました。



## 会員研修委員会 委員長 岩田 悠二郎

本年度は「カッコイイ青年経済人になろう」をスローガンに活動をさせて頂きました。実のところ、本スローガンは私自身がJCに入会した時に「カッコイイ」と感じた先輩が何名かいたことがスローガンに至った背景になっております。

今、自分が中堅と呼ばれる会員歴になり、JAYCEEとして新入会員や地域の人「カッコイイ」と思って頂けるか、また社内や家庭においても「カッコイイ」と胸を堂々と張れるか自分に一年間問いかけてきました。1年前の今頃は、楽しく委員会運営すればいいからとりあえず飲もう等と考えておりました。

しかしながら、本年の活動を通じ、最も有益で貴重な事は「時間」と痛感いたしました。40歳までの青年会議所活動という時間は共通です。人生を価値のあるものにしていくために、日々を見直し、よりよい明日を描きましょう。そして「カッコイイ」青年経済人物像を自分で考え、地域を愛せる人財となれるように今後の活動を皆で盛り上げましょう。

